

## 安全データシート

版番号 6.3  
改訂日 01.09.2023  
印刷日 11.05.2024

## 1. 化学品及び会社情報

## 1.1 製品識別名

製品名 : 2-Propanol, SAJ first grade,  $\geq 99.0\%$

カタログ番号 : 15-2330

ブランド : Katayama

CAS番号 : 67-63-0

## 1.2 他の特定手段

データなし

## 1.3 推奨用途及び使用上の制限

特定用途 : 研究開発での使用のみ。薬事、家庭用その他の用途には用いない。

## 1.4 安全データシート作成者の詳細

会社名 : Sigma-Aldrich Japan G.K.  
1-8-1 Arco Tower, Shimomeguro, Meguro-ku  
TOKYO 153-8927  
JAPAN  
東京都目黒区下目黒 1-8-1 アルコタワー  
担当部門 : ライフサイエンス  
レギュラトリーアフェアーズ

電話番号 : +81 (03) 6758-3625

FAX : +81 (03) 6756-8300

## 1.5 緊急連絡電話番号

緊急連絡先TEL : +81 (0)3 4520 9637 (CHEMTREC)

## 2. 危険有害性の要約

### 2.1 GHS分類

引火性液体 (区分2), H225

眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性 (区分2A), H319

特定標的臓器毒性 (単回ばく露) (区分3), 麻酔作用, H336

このセクションで言及された H-ステートメントの全文は、セクション 16 を参照する。

### 2.2 注意書きも含むGHSラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

H225

引火性の高い液体及び蒸気。

H319

強い眼刺激。

H336

眠気又はめまいのおそれ。

注意書き

安全対策

P210

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

P233

容器を密閉しておくこと。

P240

容器を接地しアースをとること。

P241

防爆型の【電気機器 / 換気装置 / 照明機器 / 機器】を使用すること。

P242

火花を発生させない工具を使用すること。

P243

静電気放電に対する措置を講ずること。

P261

ミスト / 蒸気の吸入を避けること。

P264

取扱い後は皮膚をよく洗うこと。

P271

屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

P280

保護手袋 / 保護眼鏡 / 保護面を着用すること。

応急措置

P303 + P361 + P353

皮膚 (又は髪) に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水【又はシャワー】で洗うこと。

P304 + P340 + P312

吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し, 呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師に連絡すること。

P305 + P351 + P338

眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P337 + P313	眼の刺激が続く場合：医師の診察 / 手当てを受けること。
保管	
P403 + P233	換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
P403 + P235	換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
P405	施錠して保管すること。
廃棄	
P501	内容物 / 容器を承認された処理施設に廃棄すること。

### 2.3 他の危険有害性 - なし

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	：	化学物質
化学特性(示性式、構造式等)	：	C3H8O
分子量	：	60.1 g/mol
CAS番号	：	67-63-0
EC番号	：	200-661-7
化審法官報公示番号	：	2-207
安衛法官報公示番号	：	2-(8)-319

#### 危険有害成分

化学名	分類	含有量
<b>2-プロパノール</b>		
	Flam. Liq. 2; Eye Dam./Irrit. 2A; STOT SE 3; H225, H319, H336 濃度限界: >= 20 %: STOT SE 3, H336;	<= 100 %

このセクションで言及されたH-ステートメントの全文は、セクション 16 を参照する。

---

## 4. 応急措置

### 4.1 必要な応急手当

#### 一般的アドバイス

この安全データシートを担当医に見せる。

#### 吸入した場合

吸入後は新鮮な空気を吸うこと。ただちに医師の診察を受けること。

#### 皮膚に付着した場合

皮膚に接触した場合: すべての汚染された衣類を直ちに脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。

#### 眼に入った場合

眼に触れた後は多量の水ですすぐこと。眼科医の診察を受けること。コンタクトレンズをはずす。

#### 飲み込んだ場合

飲み込んだ後はただちに水を飲ませること(多くても2杯) 医師に相談する。

### 4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

### 4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

---

## 5. 火災時の措置

### 5.1 消火剤

#### 適切な消火剤

二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) 泡 粉末

#### 使ってはならない消火剤

本物質/混合物に対する消火剤の制限なし

### 5.2 特有の危険有害性

#### 炭素酸化物

可燃性。

逆火に注意する。

蒸気は空気より重く、床に沿って広がることもある。

火災時に有害な燃焼ガスや蒸気を生じるおそれあり。

周囲温度で空気と反応して爆発性混合物を生じる。

### 5.3 消防士へのアドバイス

火災時には、自給式呼吸器を着用する。

### 5.4 詳細情報

容器を危険ゾーンから移動させて水で冷やすこと。消火水が、地上水または地下水のシステムを汚染しないようにする。

---

## 6. 漏出時の措置

### 6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

救急隊員以外への助言: 蒸気、エアゾールを吸入してはならない。触れないようにすること。十分な換気を確保する。熱や発火源から遠ざける。危険なエリアから避難し、緊急時手順に従い、専門家に相談のこと

個人保護については項目 8 を参照する。

### 6.2 環境に対する注意事項

物質が排水施設に流れ込まないようにする。爆発のおそれ。

### 6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

排水溝に蓋をすること。こぼれたら集めて結合させ、ポンプですくい取る。物質の制限があれば順守のこと (セクション 7、10 参照) 液体吸収剤(例. Chemisorb®)で処置すること。正しく廃棄すること。関係エリアを清掃のこと。

### 6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション13を参照。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 7.1 安全な取扱いのための予防措置

#### 安全取扱注意事項

換気フードの下で作業すること。吸い込まないこと。蒸気やエアロゾルが生じないようにすること。

#### 火災及び爆発の予防

炎、熱および発火源から遠ざける。静電気放電に対する予防措置を講ずること。

#### 衛生対策

汚した衣類は替えること。本物質を扱った後は手を洗うこと。

注意事項は項目2.2を参照。

## 7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

### 保管条件

容器を密閉し、乾燥した換気の良い場所に保管する。熱や発火源から遠ざける。

### 保管安定性

推奨された保管温度

15 - 25 °C

### 保管クラス

保管クラス (ドイツ) (TRGS 510): 3: 可燃性液体

## 7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 8.1 管理パラメータ

#### コンポーネント別作業環境測定パラメータ

化学名	CAS番号	Value	管理パラメータ	出典
2-プロパノール	67-63-0	ACL	200 ppm	作業環境評価基準、健康障害防止指針
		OEL-C	400 ppm 980 mg/m <sup>3</sup>	日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告 -I.化学物質の許容濃度
2-プロパノール	67-63-0	TWA	200 ppm	米国。ACGIH限界閾値 (TLV)
	備考	ヒト発がん性物質としては未分類		
		STEL	400 ppm	米国。ACGIH限界閾値 (TLV)
		ヒト発がん性物質としては未分類		

#### 導出無影響レベル (DNEL)

応用分野	暴露の主経路	健康影響	Value
作業員	吸入	長期的全身への影響	500 mg/m <sup>3</sup>
作業員	皮膚接触	長期的全身への影響	888mg/kg BW/d
消費者	吸入	長期的全身への影響	89 mg/m <sup>3</sup>
消費者	皮膚接触	長期的全身への影響	319mg/kg BW/d
消費者	飲み込んだ場合	長期的全身への影響	26mg/kg BW/d

## 予測無影響濃度 (PNEC)

コンパートメント	Value
土壌	28 mg/kg
海水	140.9 mg/l
淡水	140.9 mg/l
海底堆積物	552 mg/kg
淡水堆積物	552 mg/kg

## 8.2 曝露防止

### 適切な技術的管理

汚した衣類は替えること。本物質を扱った後は手を洗うこと。

### 保護具

#### 眼 / 顔面の保護

NIOSH ( US ) または EN 166 ( EU ) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の保護具を使用する。保護眼鏡

#### 皮膚及び身体の保護具

本推奨は、当社発行の安全データシートに記載されている製品およびその指定の使用法のみ適用される。溶解、他の物質との混合、および EN 16523-1 に記載の逸脱条件での使用については、CE 認証手袋のサプライヤに問い合わせのこと (例. KCL GmbH, D-36124 Eichenzell, Internet: [www.kcl.de](http://www.kcl.de))

フルコンタクト

材質: ニトリルゴム

最小厚: 0.4 mm

破過時間: 480 min

試験物質: Camatril? (KCL 730 / Aldrich Z677442, Size M)

本推奨は、当社発行の安全データシートに記載されている製品およびその指定の使用法のみ適用される。溶解、他の物質との混合、および EN 16523-1 に記載の逸脱条件での使用については、CE 認証手袋のサプライヤに問い合わせのこと (例. KCL GmbH, D-36124 Eichenzell, Internet: [www.kcl.de](http://www.kcl.de))

飛沫への接触

材質: クロロプレン

最小厚: 0.65 mm

破過時間: 120 min

試験物質: KCL 720 Camapren®

## 身体の保護

難燃静電気保護服。

## 呼吸用保護具

気化ガス/エアロゾル発生時に必要 次の規格に準拠しているフィルター式呼吸器保護具を推奨します。DIN EN 143、DIN 14387および使用済み呼吸器保護システムに関連する他の付属規格。

## 環境暴露の制御

物質が排水施設に流れ込まないようにする。爆発のおそれ。

---

## 9. 物理的及び化学的性質

### 9.1 基礎物理および化学特性の情報

a) 物理状態	液体
b) 色	無色
c) 臭い	アルコール臭
d) 融点 / 凝固点	融点: -89.5 °C
e) 沸点, 初留点及び沸騰範囲	83 °C at 1,000 hPa
f) 可燃性 ( 固体、気体 )	データなし
g) 爆発下限界及び爆発上限界 / 可燃限界	爆発範囲の上限: 13.4 %(V) 爆発範囲の下限: 2 %(V)
h) 引火点	11.7 °C
i) 自然発火温度	425.0 °C
j) 分解温度	分解されていない状態で標準圧で蒸留可能
k) pH	at 20 °C 中性
l) 粘度	動粘度 ( 動粘性率 ) : データなし 粘度(粘性率): 2.2 mPa.s at 20 °C
m) 水溶性	at 20 °C 可溶
n) n-オクタノール / 水分	log Pow: 0.05 - 生物濃縮は予測されない。

配係数 ( log 値 )

o) 蒸気圧	43 hPa at 20 °C
p) 密度	0.786 gPcm3 at 20 °C
比重	データなし
q) 相対ガス密度	データなし
r) 粒子特性	データなし
s) 爆発特性	爆発性として分類されていない
t) 酸化特性	なし

## 9.2 その他の安全情報

最低点火エネルギー	0.65 mJ
伝導度	< 0.1 μS/cm
表面張力	20.8 mN/m at 25.0 °C
相対ガス密度	2.07

---

## 10. 安定性及び反応性

### 10.1 反応性

過酸化物形成の可能性

蒸気は空気と爆発性混合物を形成することがある。

### 10.2 化学的安定性

空気と反応し過酸化物を形成する。

標準的な大気条件(室温)で化学的に安定。

### 10.3 危険有害反応可能性

次との反応で爆発のおそれ:

塩素酸塩

ホスゲン

有機窒素化合物

過酸化水素

過塩素酸塩

強酸化剤

硝酸

二酸化窒素

酸素

次との反応で燃焼ガスや蒸気の発火または生成のおそれ:

アルカリ金属

アルカリ土類金属

酸化クロム(VI)

次により発熱反応を生じる:

アルデヒド類

アミン

発煙硫酸

鉄

アルミニウム

塩素

強酸

ハロゲン化合物

カリウムトブタノラート

#### 10.4 避けるべき条件

加温。

#### 10.5 混触危険物質

データなし

#### 10.6 危険有害な分解生成物

火災の場合:項目5を参照

---

### 11. 有害性情報

#### 11.1 毒性情報

##### 急性毒性

LD50 経口 - ラット - 5,840 mg/kg

(OECD 試験ガイドライン 401)

LC50 吸入 - ラット - オスおよびメス - 4 h - 37.5 mg/l - 蒸気

(OECD 試験ガイドライン 403)

LD50 経皮 - ウサギ - 12,800 mg/kg

備考: (RTECS)

Katayama- 15-2330

ページ 10 の 16

The life science business of Merck operates as MilliporeSigma in the US and Canada

**MERCK**

### 皮膚腐食性 / 刺激性

皮膚 - ウサギ

結果: 皮膚刺激なし - 4 h

(OECD 試験ガイドライン 404)

### 眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性

眼 - ウサギ

結果: 眼への刺激

(OECD 試験ガイドライン 405)

備考: (規則 (EC) No 1272/2008, Annex VI)

### 呼吸器感作性又は皮膚感作性

ビューラー法 - モルモット

結果: 陰性

(OECD 試験ガイドライン 406)

### 生殖細胞変異原性

試験タイプ: Ames 試験

テストシステム: Salmonella typhimurium

代謝活性化: 代謝活性化の存在または不存在

方法: OECD 試験ガイドライン 471

結果: 陰性

試験タイプ: in vitro哺乳動物細胞遺伝子変異試験

テストシステム: チャイニーズハムスター卵巣細胞

代謝活性化: 代謝活性化の存在または不存在

方法: OECD 試験ガイドライン 476

結果: 陰性

試験タイプ: in vivo小核試験

種: マウス

細胞型: 骨髄

投与経路: 腹腔内注射

方法: OECD 試験ガイドライン 474

結果: 陰性

### 発がん性

この製品は、IARC、ACGIH、NTPまたはEPA分類に基づく発がん性物質に分類できない成分である、またはそのような成分を含有する。

### 生殖毒性

データなし

#### 特定標的臓器毒性 ( 単回ばく露 )

吸入, 経口 - 眠気又はめまいのおそれ。 - 中枢神経系

備考: (EU) 1272/2008規則, Annex VI (Table 3.1/3.2)に基づく分類

#### 特定標的臓器毒性 ( 反復ばく露 )

データなし

#### 誤えん有害性

データなし

### 11.2 追加情報

化学的、物理的および毒性学的性質の研究は不十分と考えられる。

中枢神経系抑鬱, 長期または反復暴露により起こることがある: , 吐き気, 頭痛, 嘔吐, 昏睡状態, 眠気, 過剰暴露により、弱い可逆性の肝臓影響を引き起こす可能性がある。、誤嚥により次の症状が起こることがある: , 肺浮腫, 肺炎

化学的、物理的および毒性学的性質の研究は不十分と考えられる。

吸収後:

頭痛

めまい

酩酊

意識消失

昏睡状態

大量に摂取後:

昏睡

十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。

腎臓 - 便秘 - ヒトの証拠に基づく

---

## 12. 環境影響情報

### 12.1 生態毒性

魚毒性

流水式試験 LC50 - Pimephales promelas (ファットヘッドミノウ) - 9,640

Katayama- 15-2330

ページ 12 の 16

The life science business of Merck operates as MilliporeSigma in the US and Canada

**MERCK**

mg/l - 96 h  
(OECD 試験ガイドライン 203)

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性 EC50 - Daphnia magna (オオミジンコ) - 13,299 mg/l - 48 h  
備考: (IUCLID)

藻類に対する毒性 IC50 - Desmodesmus subspicatus (緑藻) - > 1,000 mg/l - 72 h  
備考: (IUCLID)

微生物毒性 EC5 - Pseudomonas putida (シユードモナス-プチダ) - 1,050 mg/l - 16 h  
備考: (Lit.)

## 12.2 残留性・分解性

生分解性 好気性 - 曝露時間 5 d  
結果: 53 % - 易分解性。  
(指令 67/548/EEC, Annex V, C.6.)

理論上の酸素要求 (量) 2,400 mg/g  
備考: (Lit.)

BOD/ThBOD比 49 %  
備考: (IUCLID)

## 12.3 生体蓄積性

生物蓄積は予期されない(log Pow <= 4)。

## 12.4 土壤中の移動性

データなし

## 12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

## 12.6 内分泌かく乱性

データなし

## 12.7 他の有害影響

オゾン層への有害性

非該当

データなし

---

## 13. 廃棄上の注意

### 13.1 廃棄物処理方法

#### 製品

内容物及び容器は、関連法規及び各自治体の条例等の規制に従い、産業廃棄物として適切に処理すること。

---

## 14. 輸送上の注意

### 14.1 国連番号

ADR/RID (陸上規制): 1274    IMDG (海上規制): 1274    IATA-DGR (航空規制): 1274

### 14.2 品名 (国連輸送名)

ADR/RID (陸上規制): n-PROPANOL

IMDG (海上規制): n-PROPANOL

IATA-DGR (航空規制): n-Propanol

### 14.3 輸送危険有害性クラス

ADR/RID (陸上規制): 3    IMDG (海上規制): 3    IATA-DGR (航空規制): 3

### 14.4 容器等級

ADR/RID (陸上規制): II    IMDG (海上規制): II    IATA-DGR (航空規制): II

### 14.5 環境危険有害性

ADR/RID: 非該当    IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): 非該当    IATA-DGR (航空規制): 非該当

### 14.6 特別の安全対策

なし

### 14.7 混触危険物質

---

## 15. 適用法令

### 15.1 物質または混合物に固有の安全、健康および環境に関する規則/法律

#### 国内適用法令

消防法: 第4類:引火性液体, アルコール類, 危険等級II

毒物及び劇物取締法: 非該当

労働安全衛生法

特定化学物質障害予防 非該当

規則:

有機溶剤中毒予防規 第二種有機溶剤

規則:

名称等を通知すべき危険物及び有害物

法第 57 条の 2 (施行令別表第 9)

化学名	含有量 (%)	備考
プロピルアルコール	>=90 - <=100	-

名称等を表示すべき危険物及び有害物

法第 57 条 (施行令第 18 条)

化学名	備考
プロピルアルコール	-

化学物質排出把握管理 非該当

促進法:

非該当

## 16. その他の情報

-セクション 2 および 3 において言及された H-ステートメントの全文。

H225 引火性の高い液体及び蒸気。

H319 強い眼刺激。

H336 眠気又はめまいのおそれ。

### 詳細情報

本SDSは自社SDSデータベース並びに各種の出版されている情報、文献などに基づいて作成されていますが、すべての情報を網羅しているわけではありません。従って、本情報は化学物質の安全性の指標としてのみご使用ください。また、本SDSの記載内容は情報提供を目的としており、当該化学物質の取り扱い上のいかなる保証をなすものではありません。

Copyright 2020 Sigma-Aldrich Co. LLC. により、社内限定使用以外の本書の複写を禁じています。弊社ブランド移行期のため、この文書のヘッダーやフッターのブランド名はご購入製品のブランド名と合わない場合があります。しかし、文書中の製品に関する情報は変わらず、ご注文の製品に合致します。詳細は、こちらまでお問合せください。mlsbranding@sial.com.

